

六花の輝き

<教育目標>

喜んで登校し、
生き生きと学ぶ子ども

〒943-0805 上越市木田3-1-25

TEL 025-523-3858 FAX 025-525-7188

E-mail takashi@jorne.or.jp

◎コロナ禍でのマーチング

校長 遠藤 和英

ひと段落したと思った感染症が、再び拡大の様子を見せています。高志小学校でも先週、風邪等の体調不良や濃厚接触等も含めて、50人以上の子どもたちが学校を休むという日がありました。学年間の感染拡大を防ぐため、清掃は各学年ごと、休み時間の体育館の使用も学年ごと、予定されていた縦割り班ごとのなかよしチャレンジも延期、保護者のボランティアの方々に準備していただいていた読み聞かせのスペシャルストーリータイムも中止…。いろいろな予定変更を余儀なくされています。また、授業参観や人権講演会も直前に中止することとなり、保護者の皆様にご迷惑をおかけしました。

(＊スペシャルストーリータイムは、今年最後になる6年生や初めての経験となる1年生には実施する方向で調整中です。)

他にも大きな影響を受けているのがマーチングです。ご存じのようにマーチングは、小学校教育課程の中にありません。そのため、取り組む場合は、放課後、課外活動として時間を設定して練習することになります。現在の高志小にはマーチングの指導に精通した職員はおりませんので、練習する時間は、ほぼ全職員が各パートに分かれて、子どもと一緒に悪戦苦闘しながらの指導になります。経験がない職員が多いですので、子どもたちがある程度演奏できるようになるまでには膨大な時間が必要となります。しかし、学校の業務内容が増えており、以前のように課外活動の時間を確保することができません。翌日の授業の教材の準備や、子どものノート点検等をする時間を削ってマーチングの指導に充てている…。そんな厳しい現状です。

現在は、6年生から5年生へ楽器等の受け渡しを終え、課外活動の時間に6年生が5年生を指導するという段階に入っています。しかし、マーチングは、マスクを外して直接楽器を吹く活動が主になります。感染症拡大防止の影響を受け、計画していた練習を相次いで中止にせざるを得ず、いったいいつになったら練習できるのかという状態が続いています。中には、意欲満々な子どもたちもいるのですが、その期待に応えられていません。また、この現状から例年の6年生のような状態、子どもたち自身も満足する状態にするには、かなりの練習が必要で、教育課程にない活動のために職員の帰宅時間も遅くなる…。と、校長として職員の心身の健康状態も気になります。本当にこのような状態が続くようなら、「マーチングを止める」という選択をしなければならない日も近いのではと考えています。

今後、マーチングをどのようにしていくのか、引き続き職員と検討していきます。

◎いつも揃って…

右は、1年生がヤギの世話をするときに履いている長靴の写真です。いつも見ても、きれいに揃っていて、乱れているのを見たことがありません。子どもたちが自分で揃えているのか、あるいは倒れている友達の分を直しているのかわかりません。それとも、職員がいつも直して、正しい姿を見せているのかわかりません。本当のところはわかりません。ただ、あたり前のことがあたり前にできていて、通るたびに嬉しくなります。

